

2024 年度 認定こども園教育・保育要領に基づく 施設関係者評価 【まとめシート】			
＜自己評価＞ 及び ＜公開保育＞			
法人・園名		園 長 名	作成日
学校法人吾田学園・幼保連携型認定こども園あがた幼稚園		伊豆元 精一	令和6年11月26日
教育・保育要領自己評価コーディネーター		〔認証番号〕	氏名 伊豆元淳子 JH2112-013
評 価 の 記 録			
	評価者A	評価者B	評価者C
良い点	見学中に出会った子どもたちが、例外なく自分の遊びに没頭している姿が印象的でした。子どもたちの興味・関心は、それぞれ異なるはずですが、屋内・屋外問わず設置された仕掛け・コーナーの数々は、子どもたちのあらゆる好奇心の種が網羅されており、驚きの連続でした。また楽しむ仕掛けだけでなく、気になる子ども、問題を抱える子どもたちが落ち着くためのスペースや発達支援施設も併設され、園が、全てのこどもにとって居場所になっていると感じました。数多くの人数、職種の皆さんがお仕事をされていますが、全職員が、園の理念を共有されているからこそ、これだけの環境構成を可能にしていることを確信しました。	緑豊かな園庭に、子どもたちが主体的に活動を選択できる多様な環境が整っており、そこに立つだけでワクワクしました。一人または友人と、時間をかけてじっくりと観察したり、各々が求める遊びに熱心に取り組んだりして、満足して次の遊びへ移っていく子どもたちの姿が印象的でした。室内の環境も勉強になりました。熱中して十分な量の玩具で遊べる空間、自分だけの秘密の空間・光りの魔法、アプリや拡大鏡の設置の仕方、絵本や作品の見せ方、個人の特徴にあわせた部屋の間取りなど、様々な工夫と配慮がなされており感動しました。	子どもたちが自ら選択した遊びに集中している姿がとても印象的でした。遊びのエリアがうまく構成されており、遊びが途切れることなく続けられる環境が参考になりました。また先生方の子どもたちを邪魔しない距離感が、子どもたちの遊びを更に深めている大きな要因である事にも気づかされました。様々なテーマごとに、楽しく面白い仕掛けがなされたり、各部屋の環境構成にも細かい心使いが感じられ、改めて環境構成がいかに大切かを思い知らされました。また、先生方から感じられる温かい雰囲気から、安心感が得られる思いがします。5領域のバランスが良く、様々な活動が行われていました。認定こども園として地域との連携が良くとれていると感じます。
改善点	可能であれば現場の職員同士でお話をする機会があるとより深い学びになるのではと思っています。	〇様々な媒体で園の様子を発信することにも力をいれ、職員間、保護者間で情報共有を図っていると感じました。〇施設内の環境が十分整っており、物が多いのにもかかわらず、廊下やテラスや園庭を上手に利用して子どもたちの生活スペースに使用してところが印象的でした。〇職員間の情報の伝達方法にSNS等の機器を利用したり、職員配布物の裏に情報を載せたりと職員共有事項の漏れがないように工夫されているところが素晴らしいと思いました。	年齢毎の集団活動についての取組や、行事に関して、園の考え方などももう少し詳しく伺えたらと思いました。心が十分に満たされた贅沢な時間でした。
更に期待する点	〇子どもたちのために「今」必要な支援を行うという思いに心を打たれました。子どもにとっての最善を考え、本当に必要とされるものを目指していれば、時間はかかるものの、利用者が増え、行政も支援してくれるようになるという実例を目の当たりにして大変刺激を受けました。〇3歳以上のサークルタイムの様子をもっと時間をもって見学したかったです。子どもたちと保育者の対話の様子に興味があります。	季節を感じるディスプレイやさりげない演出におもてなしの心を感じました。2日にわたる園内及び施設見学を経て学ぶことが多々ありました。〇先生方の配置がきちんとなされ、広い園庭のどこで遊んでも大丈夫だという安心感がありました。子どもたちの楽しそうな声と先生方のあたたかい笑顔に包まれた素敵な時間を共有させていただきました。	職員の休憩室はプライベートを確保されていました。また効率よく仕事ができるよう様々な配慮がされていることも感じました。先生方の笑顔と楽しそうな雰囲気が印象的でした。
評価を受けて	幼保連携型認定こども園教育保育要領に沿い、子どもの興味や関心に基づいて園内の環境や遊びの仕掛けや工夫を行ってきました。その評価において、励みとなるお言葉をたくさんいただいたことは更なるやりがいにつながります。私たち保育者もワクワク感をもって子どもたちとの園生活を楽しく喜ばしいものにしていきたいと感じています。コロナ禍を経て行事のあり方を再検討したり、日常の生活をいかに充実していくか、また自己肯定感を育むための保育者の関わり方など共に意見交換ができ、評価していただく側にとって意義ある機会でした。ICTに伴う業務の効率化や、子どもたちの生活においては、活用次第では豊かな遊びにつながる事など、情報交換もできました。地域における園の役割についても様々な観点から評価をしていただき、園の果たす役割の重要性についても再認識できました。子どもまん中社会を目指して、地域に暮らす人々が連携し幸福感を感じられるような取組を今後も考えていきたいと思いました。多くの専門家の方々に、園全体の取組を評価していただく中で強く感じたことは、保育とは技巧的なことにとらわれるのではなく、人が人として生きていくことをしっかりと見つめていくことだ、ということです。園に集う人々のウェルビーングを目指して、今ここで園生活を再度見直していこうと感じています。		

※施設関係者評価 (1)〔評価者A〕 他の乳幼児施設職員または地域の幼児教育・保育関係者

公開保育評価者 (次のいずれか) ① 共に研修に取り組む他園職員 ② 自治体こども関連職員等 ③ 地域の幼児教育・保育に長年携わっている方等

(2)〔評価者B〕 小学校等の他校種教員等による評価

(次のいずれか) ① 小学校との接続を図っている小学校職員 ② 養成校職員等

(3)〔評価者C〕 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者

(次のいずれか) ④ 地域の幼児教育アドバイザー ⑤ 教育・保育要領自己評価コーディネーター (同市町村以外の教員初等中等学世